

【特別講演の要旨】

演題『やなせたかし最後の編集者が叶えた夢』

「やなせたかしのメルヘン絵本」の企画・編集者 平松 利津子 様

編集者・絵本作家である平松様にご自身の人生経験とやなせたかしさんとの関わりを中心に、「夢の実現」「人との巡り合わせ」「家庭教育の大切さ」などについてご講演いただきました。

1. 夢は行動によって実現する

中学時代に偶然出会ったやなせたかしさんの作品に感銘を受け、「本を作る人になる」と決意。10年計画でサンリオへの入社を目指し、努力の末に入社を果たす。しかし希望していた出版部ではなく営業部に配属される。落胆しながらも周囲の助言を受けて努力を続け、自己申告書で思いを訴えた結果、出版部へ異動。夢を実現した。夢は待つものではなく、考え、行動し続けることで近づく。

2. 人生最大の幸せは「人との巡り合わせ」

やなせたかしさんの言葉として、「人生最大の幸せは人との巡り合わせである」と紹介。営業時代の出会い、編集活動での出会い、震災復興支援での出会いなど、すべてが人生を形作った。そんなとき、東日本大震災で故郷・陸前高田が壊滅的被害を受ける。唯一残った「奇跡の一本松」を再生するため、やなせたかしさんに協力を依頼するも、やなせ氏は「まず皆で集めなさい」と助言。私が全部支援したら「やなせたかしの松」になってしまう。そこで皆さんに呼びかけ支援活動をしたところ、多くの支援が集まった。善意は広がり、人を動かす力になる

3. 編集者としての信念

売れている人ではなく、自分の目で良いと思った人を起用。子どもの声を直接集める双方向の紙面づくりをする。コラム「大勢の中のあなたへ」で子どもの悩みに応答。子どもの本音を聴くことが本当の教育につながると思う。

4. 家庭教育の重要性 「10分間の読み聞かせ貯金」

現在は小学校で放課後支援員も務める。現場で感じたのは「教育の原点は家庭にある」という ということ。1日10分でよいので寝る前の読み聞かせ時間をつくってあげてほしい。上手に読む必要はないし、方言でも、自分流でもよい。親子が向き合う時間が大切。その10分が、子どもの心の土台になるのではないか。

5. 「良き人であれ」

やなせたかしさんから最後に言われた言葉。「良き人でいなさい。そうすれば誰かが助けてくれる」 アンパンマンの精神も同様に、善く生きることが人を支え、支えられる循環を生む